

道徳だより

令和5年 3月
七塚小学校
校長 稲垣 優子
6年生担当

今回は、6年生の授業の様子についてお伝えします。

主題名：公正・公平，社会正義

教材名：「わたしのせいじゃない」

《ねらい》

「私のせいじゃない」と言っている子どもたちの考え方から、いじめに対する傍観者としての無責任な気持ちがいじめを生んでいることを理解し、いじめをたち切るために社会正義を貫こうとする態度を養う。

《あらすじ》

14人の集団からいじめられて、一人の子どもが泣いている。しかしいじめる側は、「自分のせいじゃない」といって、いじめていることを否定したり、正当化したりする。また、いじめに加担していない傍観者であると強調したり、同調して自分たちの行為を弁護したりと、いじめの様態を示す者もいる。




教師の問いかけ

あなたならなら、この学級のいじめを止めるためにだれにどんな声かけをしますか？



↓14人の中から自分だったらどう話しかけるかを選んで考え、タブレットで共有しました。

 ⑬	名前おぼえてほしいです	相手のことをよく考えてください	相手のことを考えてください
 ⑦	自分がされたら嫌なことを人にするな	人のことを悪く言うのはだめだよ。	相手のことを考えてください
 ②	もし自分かそんな事言われたらどんな気持ちになるか考えて	クラスの人をしっかりと覚えて！	しっかりとその人のことを考えて

始めてなくてもいじめを大きくするのなら頑張らよ

他の人がたっていたなら止めなさい

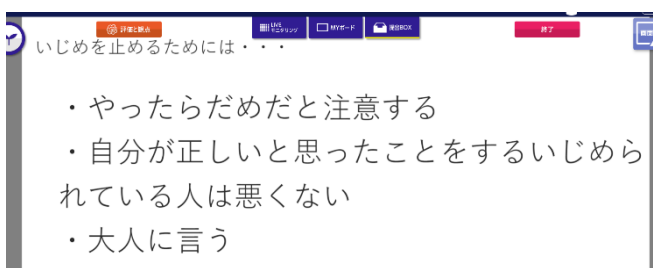
声ぐらいかけようぜ!!!

少しでも嫌なことをすれば同罪

はじめた人だけが悪いの？あなたもたたきましたよね？

僕は知らないじゃだめ

↓いじめの止め方についてグループで話し合い、再度タブレットを使って発表しました。



- ・だれから始めたか、何度たたいたかじゃなく、参加したらだめ。
- ・クラスで悩んでいる人がいるのに、見て見ぬふりをしたり、関わらないようにしたりするのもいじめているのと同じ。
- ・知らないふりをするのではなく、声をかけてあげれば良いと思う。



「加害者」「同調者」「傍観者」「無関心」と、様々な立場にある14人の中から、だれにどう声をかけるかを一人一人が考え、タブレットで共有しました。加害者や同調者はもちろんのこと、傍観者や無関心についても、いじめに加担していることと同じであると捉える子が多く、すべての登場人物に対して、みんなが安心して過ごすためには、考えていかなければならない部分があるという話し合いになりました。

その後、グループで「どうすればいじめを止めることができるか」について発表し合い、出てきた意見を、全員で交流しました。「いじめられている人は悪くない。」「みんなで止めたり注意したりする。」「すぐに大人に相談する。」など様々な意見が見られ、いじめをなくすためにアクションを起こしていくことの大切さに気付いていたようです。みんなが安心できる人間関係を支え合ってつくっていきたいですね。